

試験研究成果普及情報

部門	資源管理・増養殖	対象	研究
課題名：ハマグリ の 種苗生産における着底期以降の稚貝の飼育条件			
〔要約〕ハマグリ の 種苗生産における着底期以降の稚貝の好適な飼育条件は、塩分が海水を 60% に希釈した濃度、水温は 33℃、餌料はパブロバ・ルテリが適当である			
キーワード [*] ハマグリ、種苗生産、浮遊幼生、東京湾			
実施機関名	主 査	東京湾漁業研究所	
	協力機関	千葉県漁業協同組合連合会	
実施期間	2015 年度～2016 年度		

〔目的及び背景〕

東京湾では長期的な資源の減少やウミグモの寄生被害によってアサリの漁獲量が著しく減少していることから、ハマグリ資源を増大させる要望が寄せられている。

このため、千葉県では、平成 24～26 年度にかけて浮遊幼生期の好適な水温、塩分、餌料の飼育条件を明らかにした。そこで平成 27～28 年度には、着底期以降の稚貝の飼育時における生残率の向上を図るため、好適な水温、塩分、餌料の飼育条件を明らかにする研究を実施した。

〔成果内容〕

1 水温条件

ハマグリ着底稚貝を飼育する海水の水温を、33℃、30℃、27℃の 3 区に設定し試験を実施した（塩分は 60% 海水、餌料はパブロバ・ルテリを使用）。着底稚貝の成長は 33℃、30℃区が等しく良好であり、生残率は 33℃区が最良であったことから、種苗生産時には 33℃区が適当と考えられる（表 1）。

2 塩分条件

ハマグリ着底稚貝を飼育する海水の塩分を、希釈海水（原海水の 80%、60%、40%）の 3 区に設定し試験を実施した（水温は 33℃に設定、餌料はパブロバ・ルテリを使用）。生残率、成長は 60% 海水区と 40% 海水区が良好で、両者にほとんど差は見られない。コスト面（淡水使用）を考慮すると、種苗生産時には 60% 海水が適当と考えられる（表 2）。

3 餌料条件

ハマグリ着底稚貝の餌料として、パブロバ・ルテリ（P 区）、イソクリシス（タヒチ株）（I 区）、キートセロス・グラシリス（C 区）の 3 種の単独給餌による飼育試験を実施した（水温は 33℃、塩分は 60% 海水に設定）。3 区とも着底期以後の成長はほとんど差が認められず、生残率はパブロバ・ルテリ給餌区で最良であることから、種苗生産時にはパブロバ・ルテリが適当と考えられる（表 3）。

〔留意事項〕

[普及対象地域]

東京湾（浦安市～富津市）の二枚貝漁業が行われている海域

[行政上の措置]

[普及状況]

[成果の概要]

表 1 水温条件飼育試験結果

試験区	飼育開始時		飼育終了時		
	供試稚貝数 (万個)	平均殻長 (mm)	平均殻長 (mm)	生残稚貝数 (万個)	生残率 (%)
33℃	210	0.19	0.66	97.6	46.5
30℃	210	0.19	0.66	77.3	36.8
27℃	210	0.19	0.64	65.3	31.1

表 2 塩分条件飼育試験結果

試験区	飼育開始時		飼育終了時		
	供試稚貝数 (万個)	平均殻長 (mm)	平均殻長 (mm)	生残稚貝数 (万個)	生残率 (%)
80%海水	210	0.19	0.71	68.4	32.6
60%海水	210	0.19	0.76	104.1	49.6
40%海水	210	0.19	0.73	103.9	49.5

表 3 餌料条件飼育試験結果

試験区	飼育開始時		飼育終了時		
	供試稚貝数 (万個)	平均殻長 (mm)	平均殻長 (mm)	生残稚貝数 (万個)	生残率 (%)
P	210	0.20	1.01	100.0	47.6
I	210	0.20	1.04	51.5	24.5
C	210	0.20	1.01	66.4	31.6

[発表及び関連文献]

ハマグリ種苗生産における着底期以降の稚貝の飼育条件、千葉県水産総合研究センター研究報告、第11号、2017年

[その他]

